

令和4年度

男女共同参画社会づくりのための

意識調査

概要版

大分県

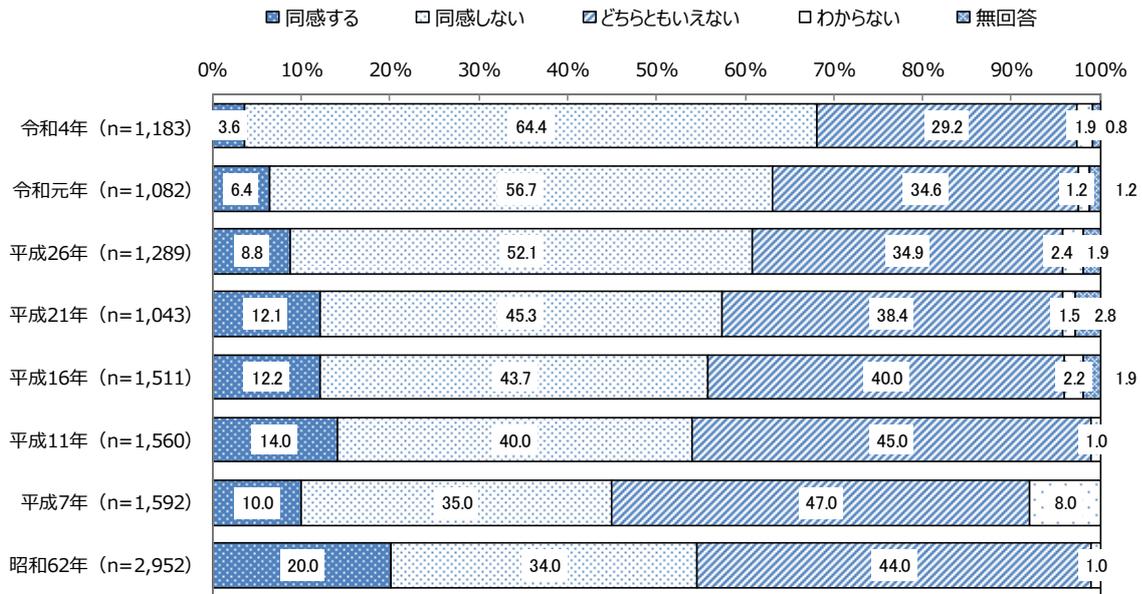
1. 男女の意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

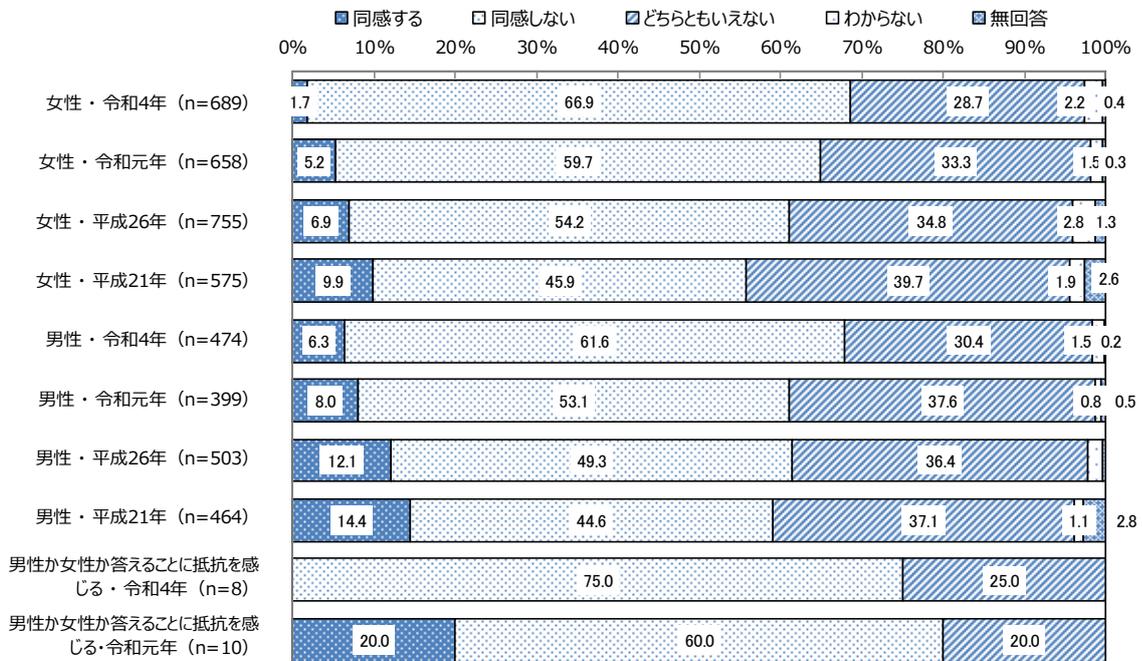
「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識※）に「同感しない」人は6割半ば。

- 全体では「同感しない」が64.4%で、昭和62年以降増加しており、前回より7.7ポイント増加しています。一方、「同感する」は3.6%となっています。

全体



性別



※固定的性別役割分担意識とは、

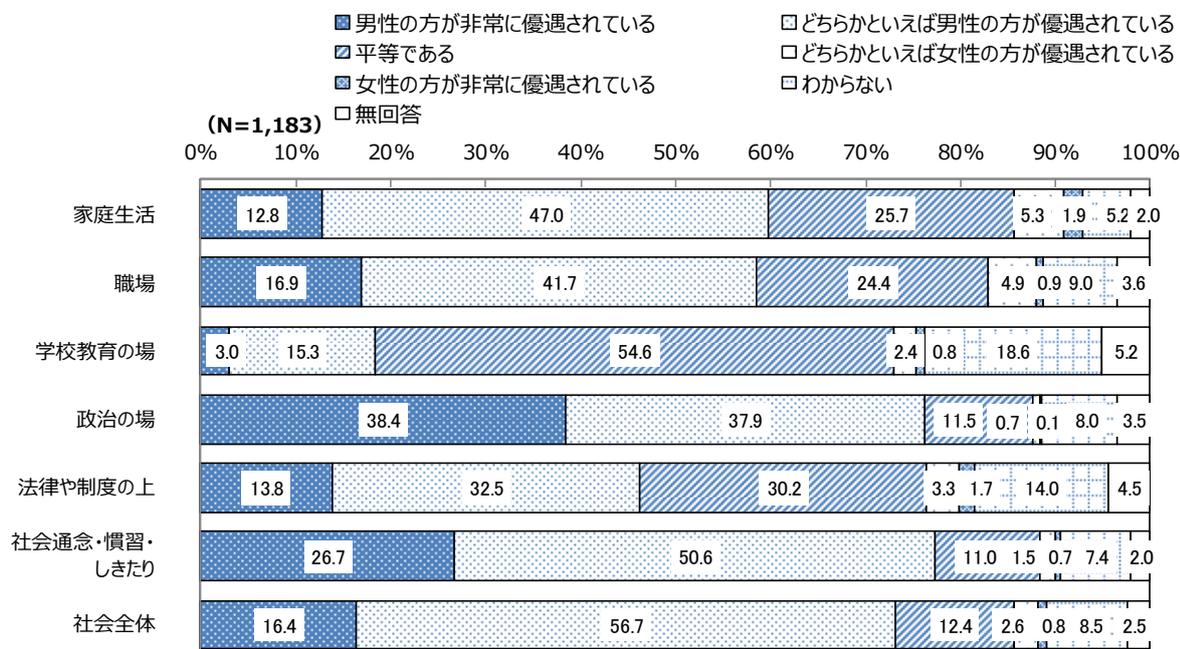
「男は仕事、女は家庭」というように、性別を理由として役割を固定的に考えることです。

男女の地位の平等感について

「学校教育の場」と「法律や制度の上」を除き、**社会生活において男性が優遇されていると感じる人が半数以上。**

- 「平等である」と回答した割合は、「学校教育の場」が 54.6% で最も高くなっています。
- 「男性の方が優遇されている（計）※」は、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」で 7 割を超えています。

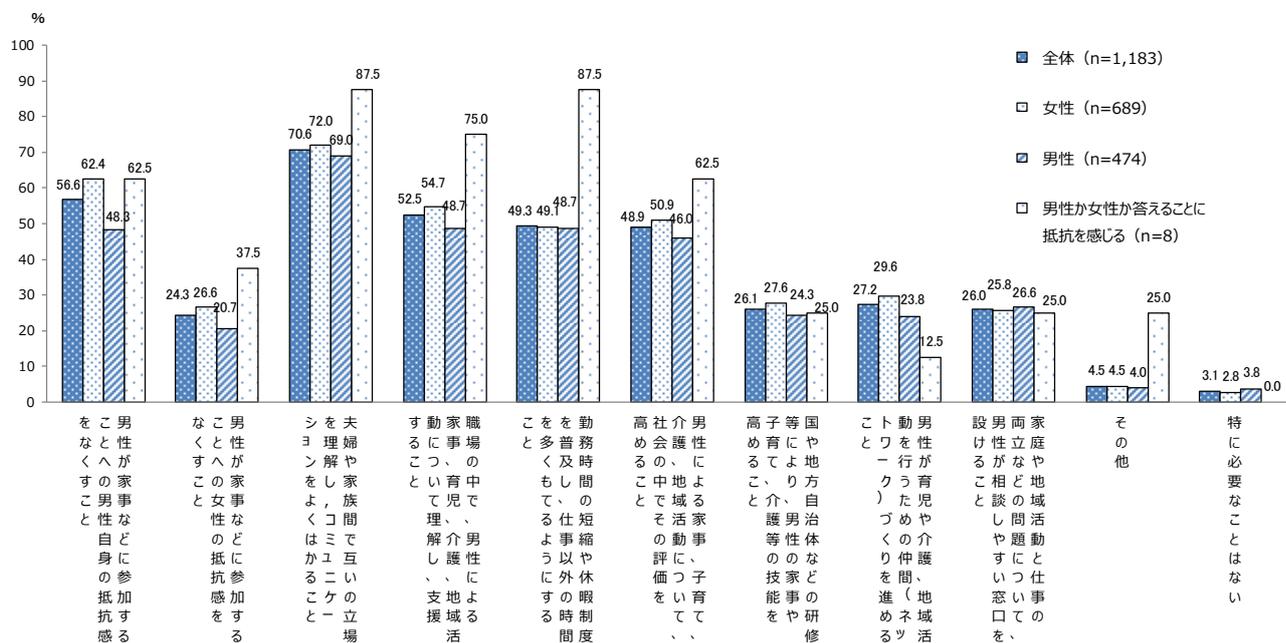
※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算したものの。



男性が女性と共に家庭生活や地域活動等へ参加するために必要なこと

地域活動参加に必要なことは「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」が 7 割強。

- 「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」は、女性と男性で約 7 割となっています。
- 男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方は、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」「勤務時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにすること」が 8 割を超えています。



2. ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人間の暴力）について

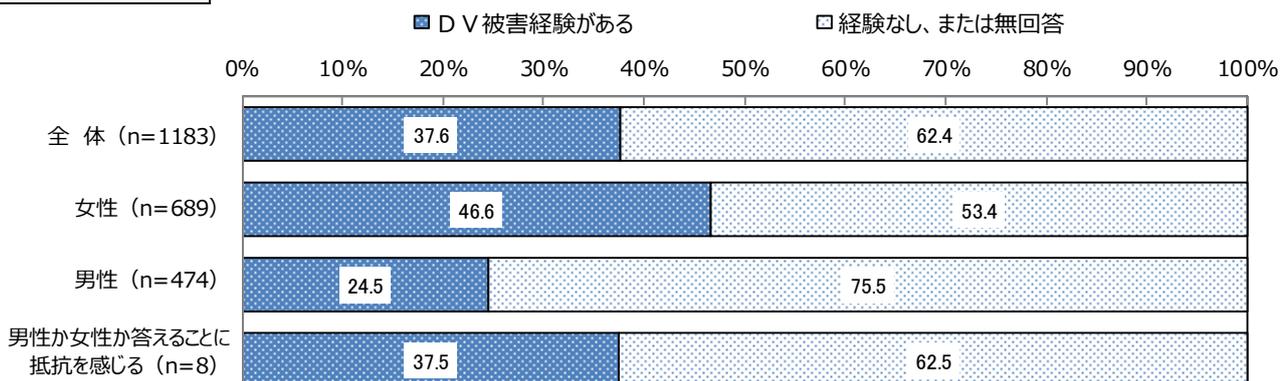
配偶者や恋人など親しい人間関係にある人との間の被害(DV 被害) の経験

DV 被害について、1 度でも被害経験がある方は 4 割弱。

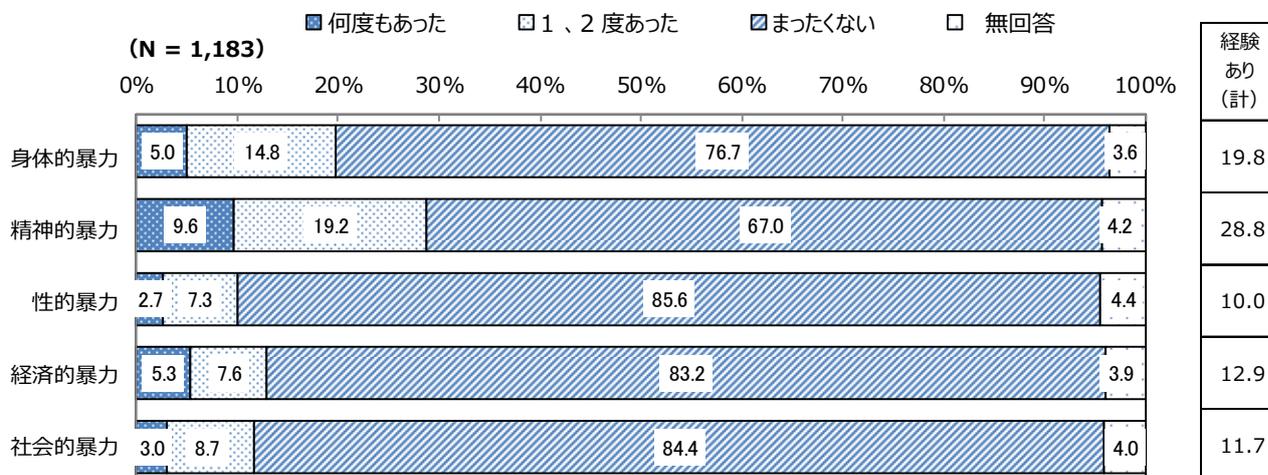
- 性別では、女性が 46.6%で最も高く、男性と比べて 22.1 ポイントの差がみられました。また、男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方では 37.5%となっています。
- 被害内容別では、経験あり（計）は精神的暴力が 28.8%で最も高く、次いで身体的暴力が 19.8%、経済的暴力が 12.9%と続いています。

※「経験あり（計）」は、「何度もあった」と「1、2 度あった」を合算した数値。

被害経験の有無



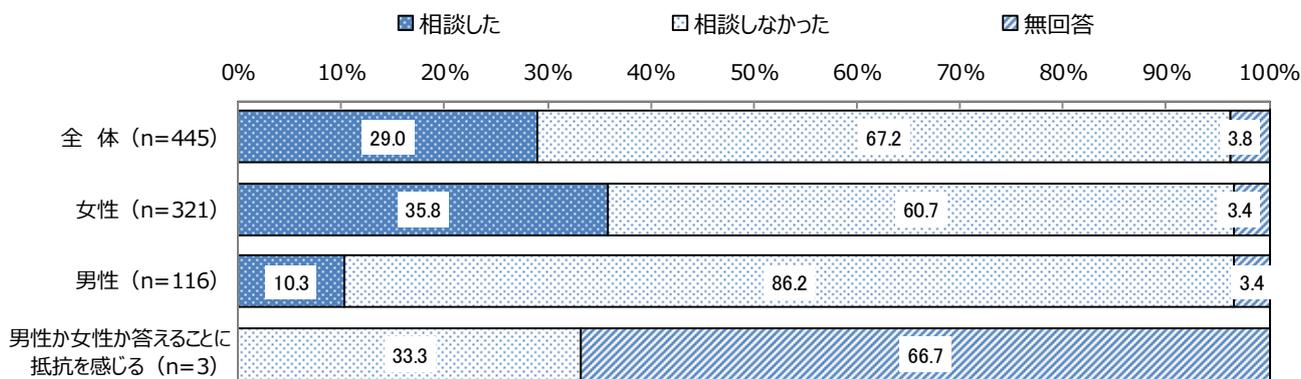
被害内容



「何度もあった」または「1、2度あった」と答えた人の相談の有無

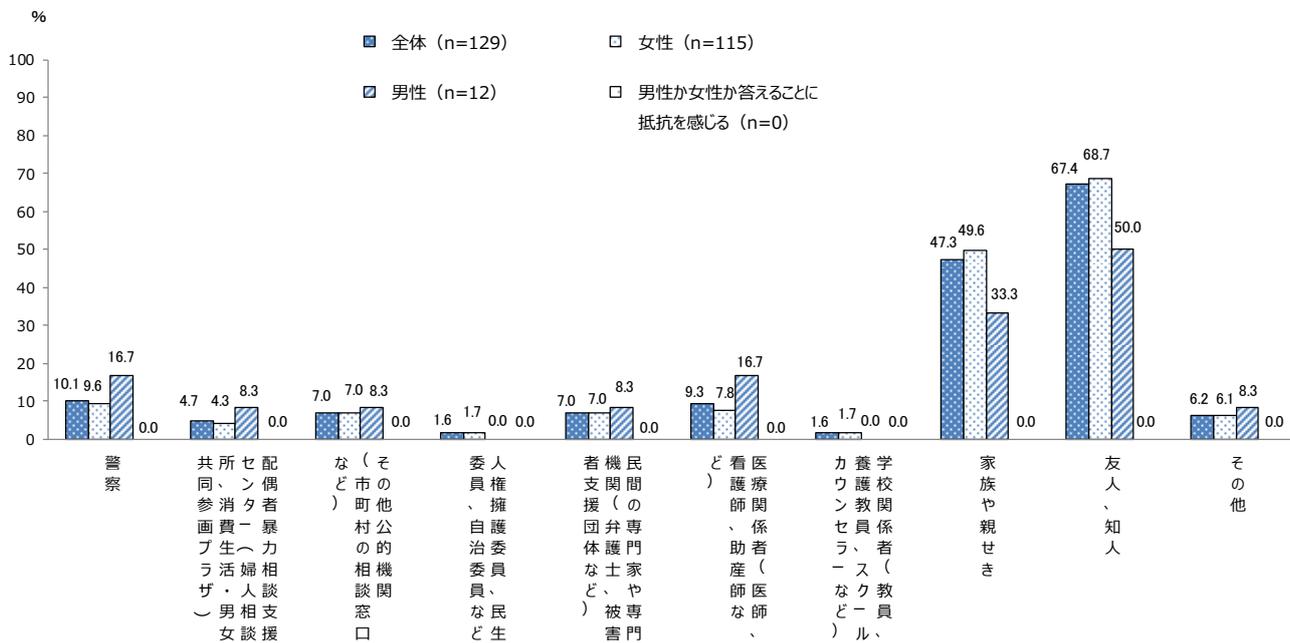
- 全体では、「相談した」は3割弱に留まっています。
- 性別では、女性（35.8%）が高く、男性（10.3%）とは25.5ポイントの差がみられました。

※nが5以下の場合にはコメントを控えている。



「何度もあった」または「1、2度あった」と答えた人の相談先

- 全体では、「友人、知人」が7割弱で最も高く、次いで「家族や親せき」が4割半ばとなっています。
- 性別でも「友人、知人」が最も高く、次いで「家族や親せき」となっていますが、いずれも女性のほうが男性よりも10ポイント以上高い数値となっています。

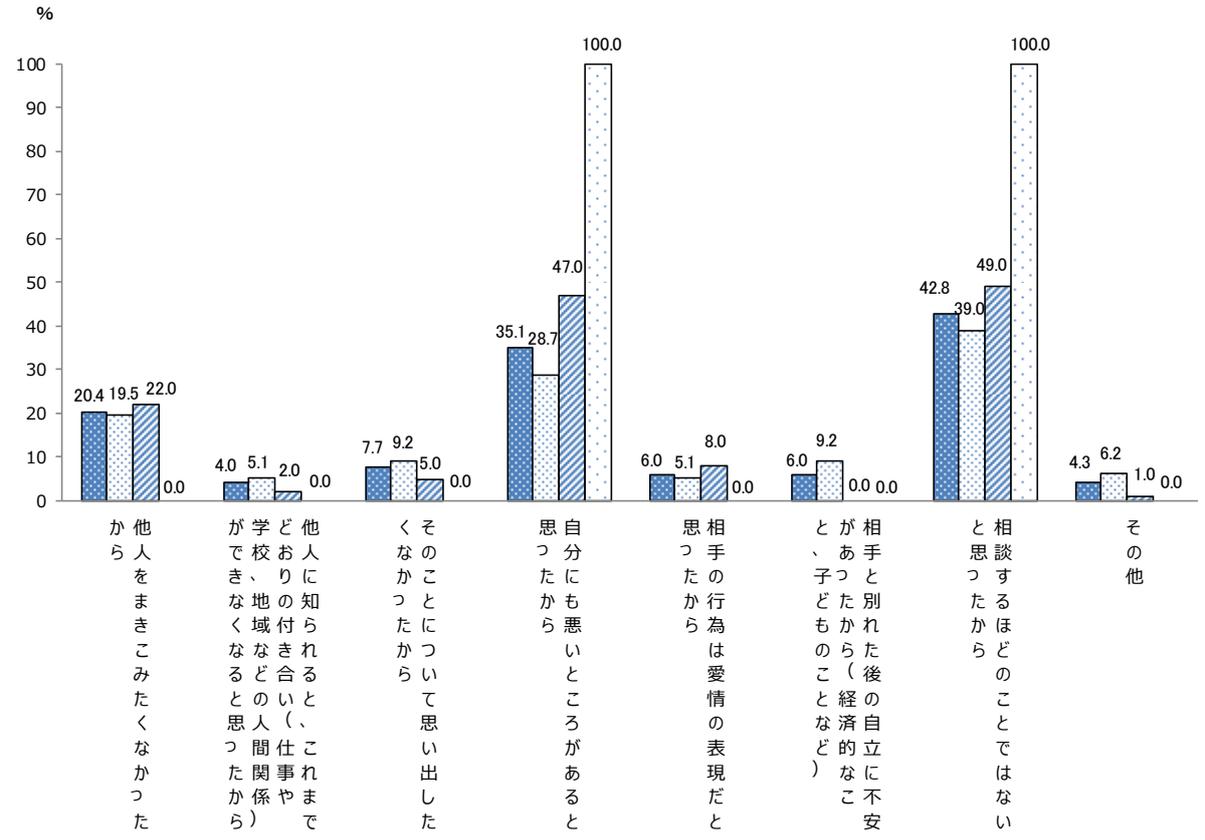
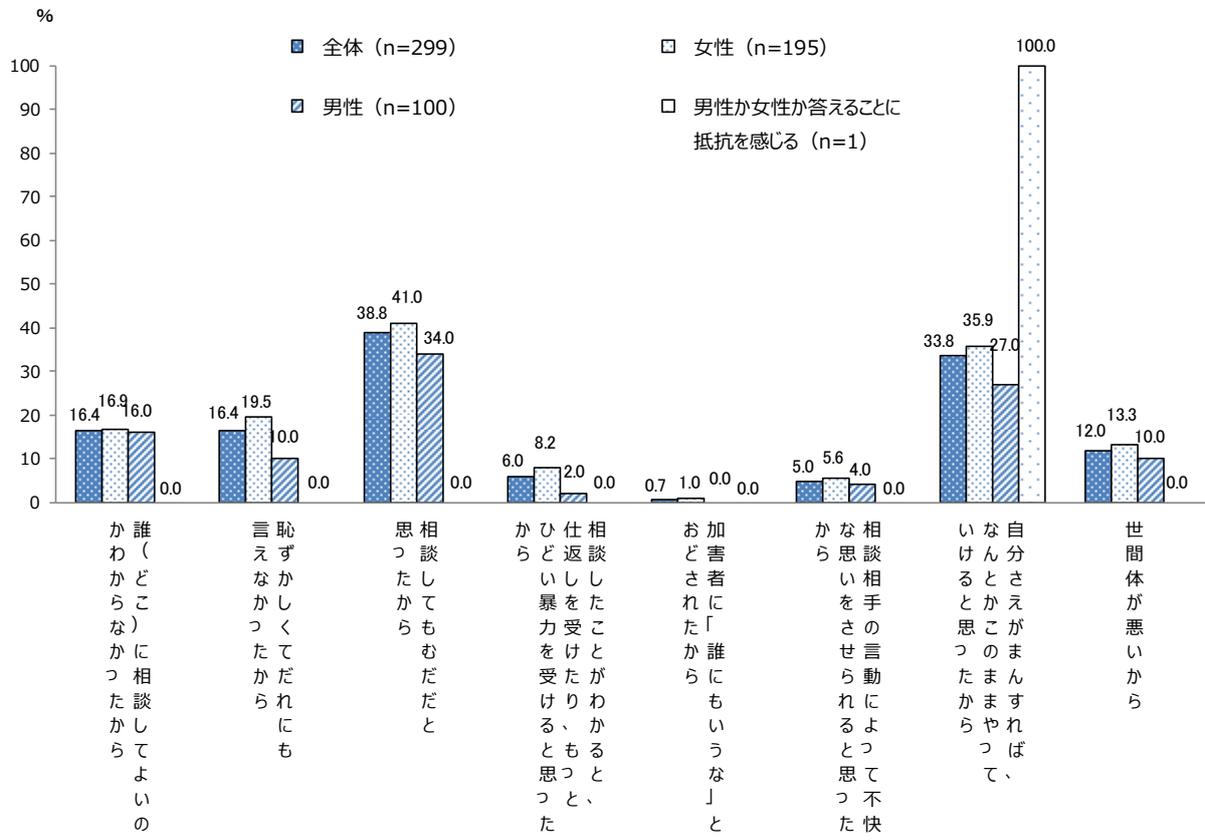


DV 被害を相談しなかった理由

相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が 4 割強。

- 全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が 42.8%で最も高く、次いで「相談してもむだと思ったから」が 38.8%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 35.1%となっています。
- 性別でみると、「自分にも悪いところがあると思ったから」では、男性（47.0%）が女性（28.7%）より約 20 ポイント高く、最も差がみられました。

※n が 5 以下の場合にはコメントを控えている。

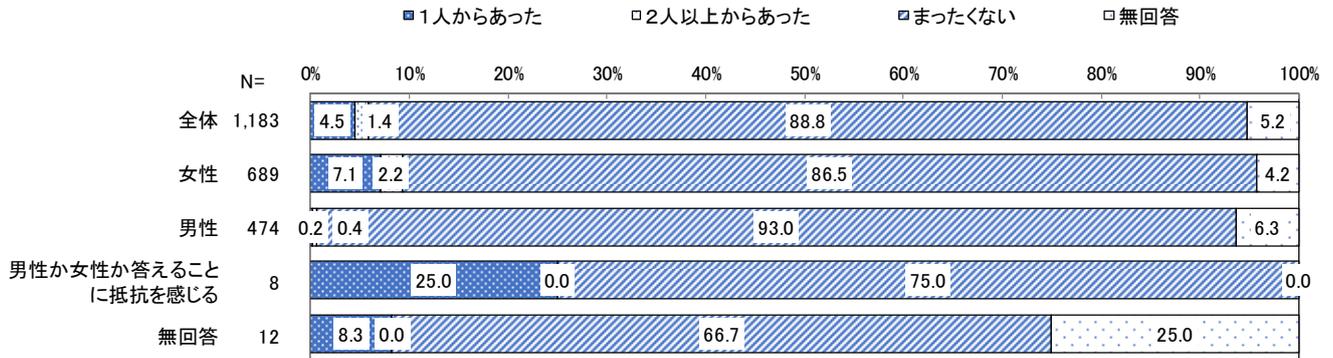


3. 性暴力について

性暴力被害の経験

一度でも性暴力被害を受けたことのある女性は 1 割弱。

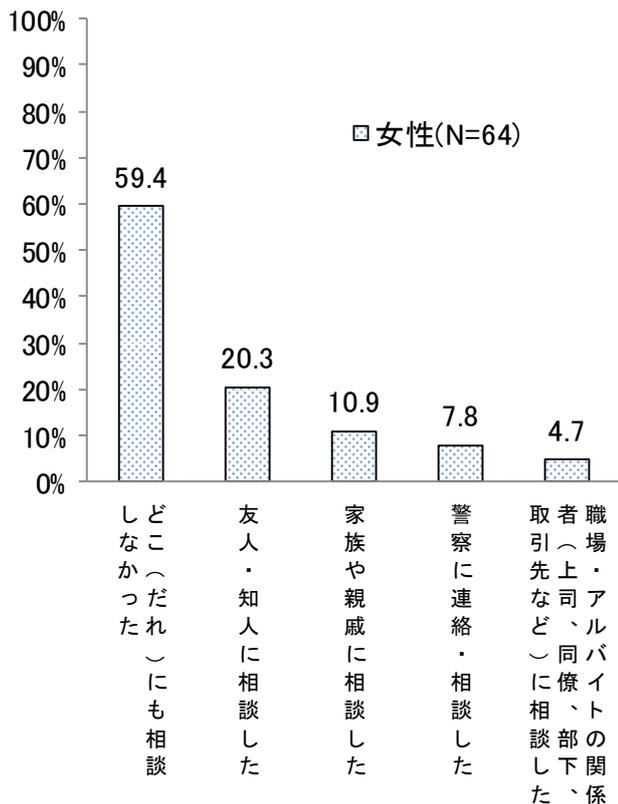
- 性別で見ると、女性では、「1 人からあった」が 7.1%、「2 人以上からあった」が 2.2%となっており、合計で 9.3%となっています。



性暴力被害をどこ（だれ）に相談したか

性暴力被害を「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した女性は、6 割弱。

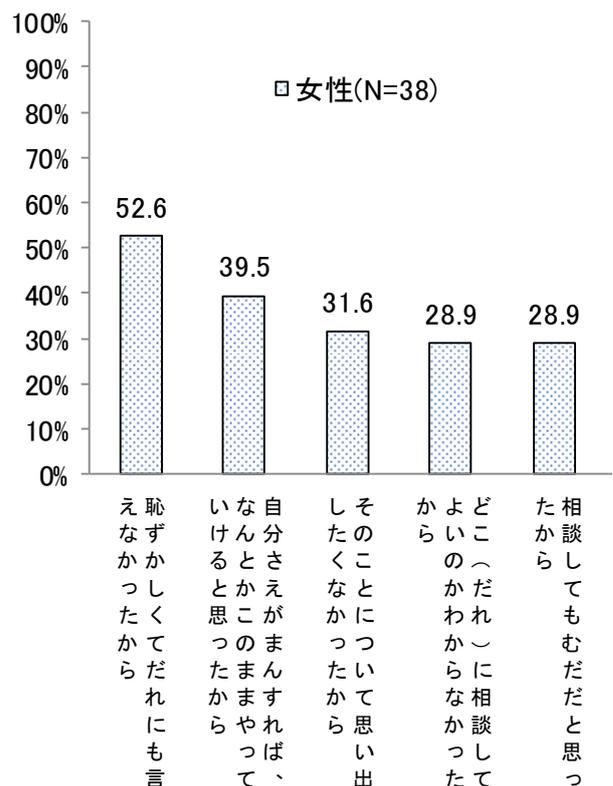
- 女性では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 59.4%で最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が 20.3%となっています。



性暴力被害を相談しなかった理由

性暴力被害を相談しなかった理由は、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が約 5 割。

- 女性では、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 52.6%と最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけたと思ったから」が 39.5%となっています。

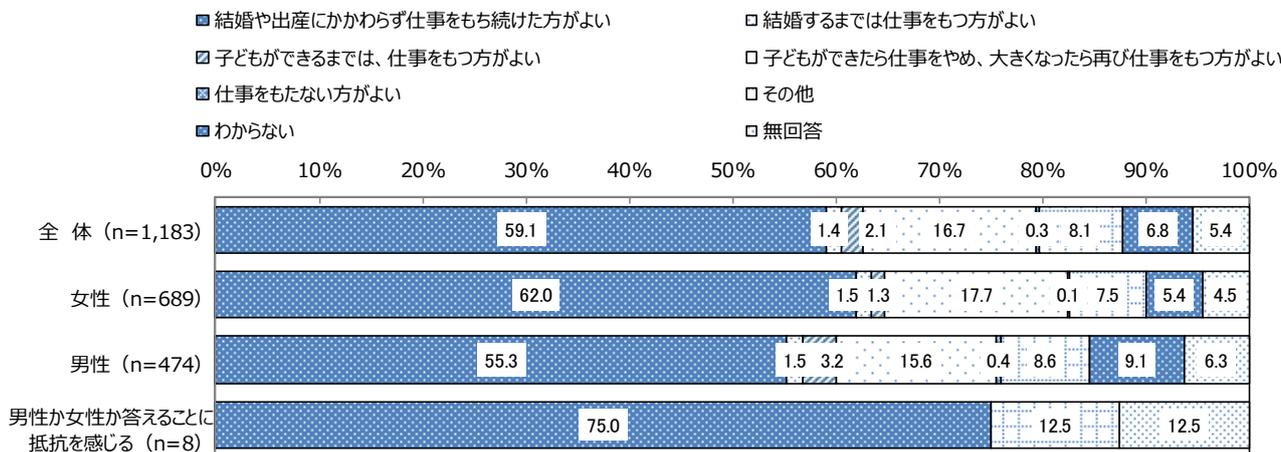


4. 女性の活躍について

女性の就業について

「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」は 6 割弱。

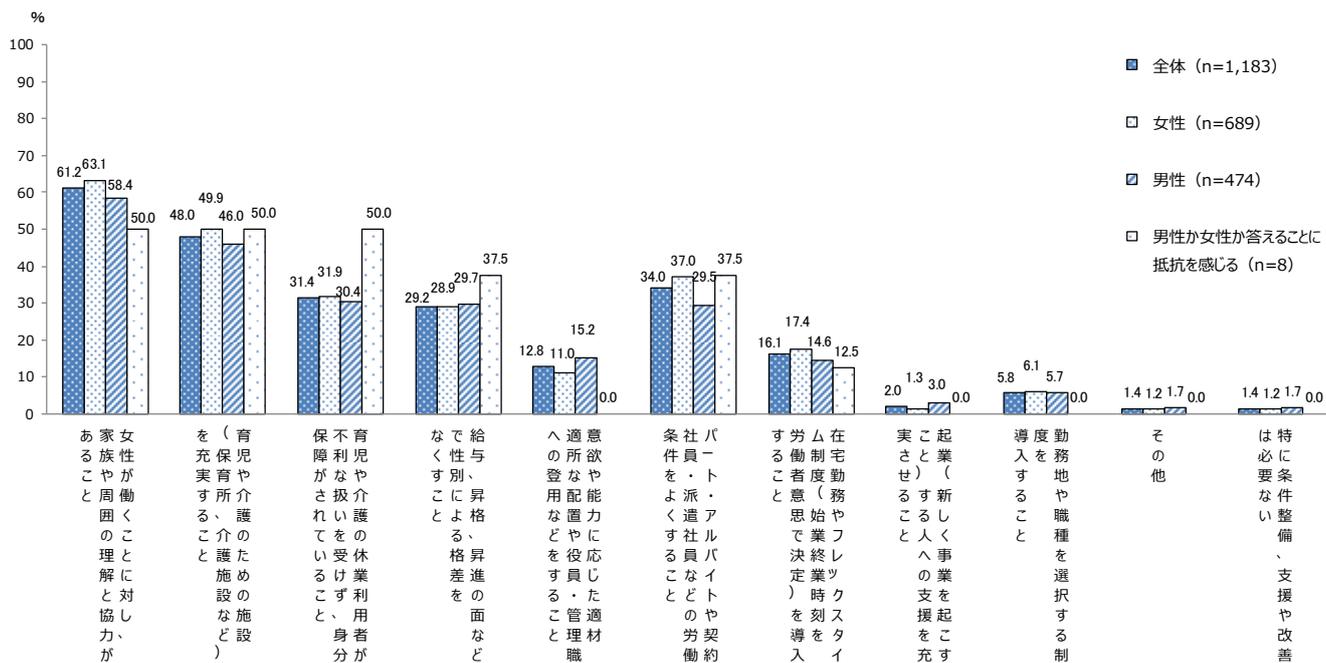
- 性別では、いずれの性も「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」が最も高い割合となり、女性は 6 割強、男性は 5 割半ば、男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方は 7 割半ばとなりました。



女性の就業継続に必要なこと

女性の就業継続に必要なことは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が 6 割強。

- 性別では、女性と男性は「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が約 6 割で最も高く、男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」「育児や介護のための施設（保育所、介護施設など）を充実すること」「育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること」がいずれも 5 割で最も高くなっています。

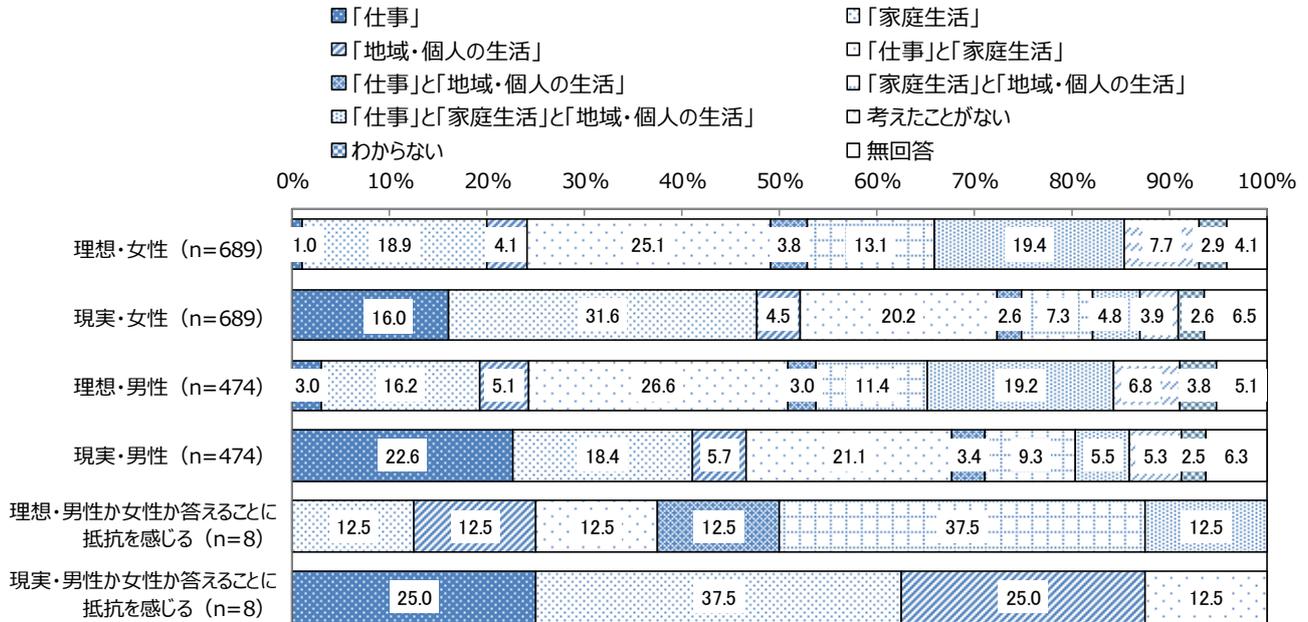


5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

現在の生活の中での希望の優先度と現実の優先度について

理想と現実で最も差がみられたのは「仕事」。

- いずれの性別でも理想と現実で最も差がみられたのは「仕事」であり、理想では優先度が低い一方、現実では優先度が高くなっています。女性は15.0ポイント差、男性は19.6ポイント差、男性が女性が答えることに抵抗を感じると回答した方では25.0ポイント差となりました。



〈令和4年度調査 希望と現実の比較表〉

	女性			男性			男性が女性が答えることに抵抗を感じる		
	希望	現実	差	希望	現実	差	希望	現実	差
「仕事」	1.0	16.0	15.0	3.0	22.6	19.6	0.0	25.0	25.0
「家庭生活」	18.9	31.6	12.7	16.2	18.4	2.2	12.5	37.5	25.0
「地域・個人の生活」	4.1	4.5	0.4	5.1	5.7	0.6	12.5	25.0	12.5
「仕事」と「家庭生活」	25.1	20.2	4.9	26.6	21.1	5.5	12.5	12.5	0.0
「仕事」と「地域・個人の生活」	3.8	2.6	1.2	3.0	3.4	0.4	12.5	0.0	12.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」	13.1	7.3	5.8	11.4	9.3	2.1	37.5	0.0	37.5
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」	19.4	4.8	14.6	19.2	5.5	13.7	12.5	0.0	12.5
考えたことがない	7.7	3.9	3.8	6.8	5.3	1.5	0.0	0.0	0.0
わからない	2.9	2.6	0.3	3.8	2.5	1.3	0.0	0.0	0.0
無回答	4.1	6.5	2.4	5.1	6.3	1.2	0.0	0.0	0.0

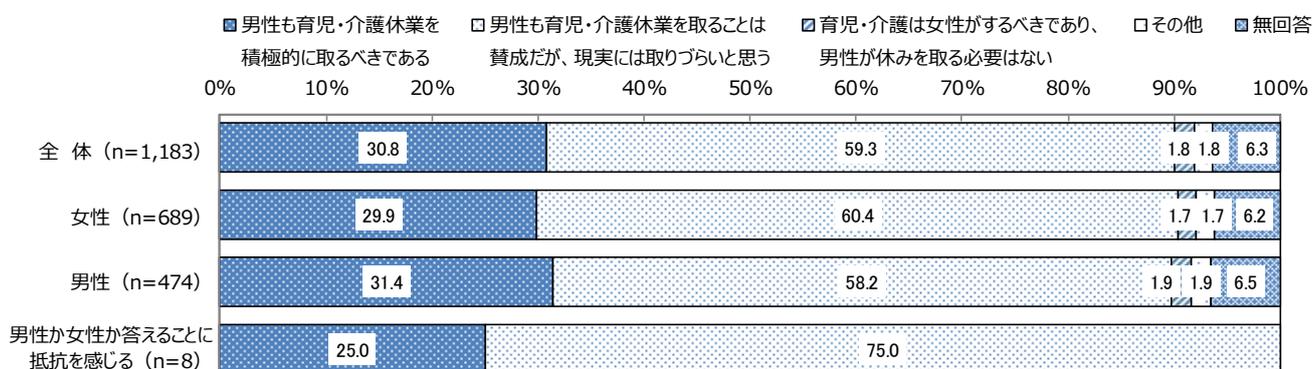
※「差」の数値は、「希望－現実」の絶対値。数値が大きければ大きいほど理想と現実の乖離が大きいことを示す。

※「男性が女性が答えることに抵抗を感じる」と回答した方は、件数が8件と少ないため参考までに掲載する。

男性が育児・介護休業をとることについて

「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が6割弱。

- いずれの性別でも「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が最も高く、男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方では7割半ばと特に高くなっています。



※仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは

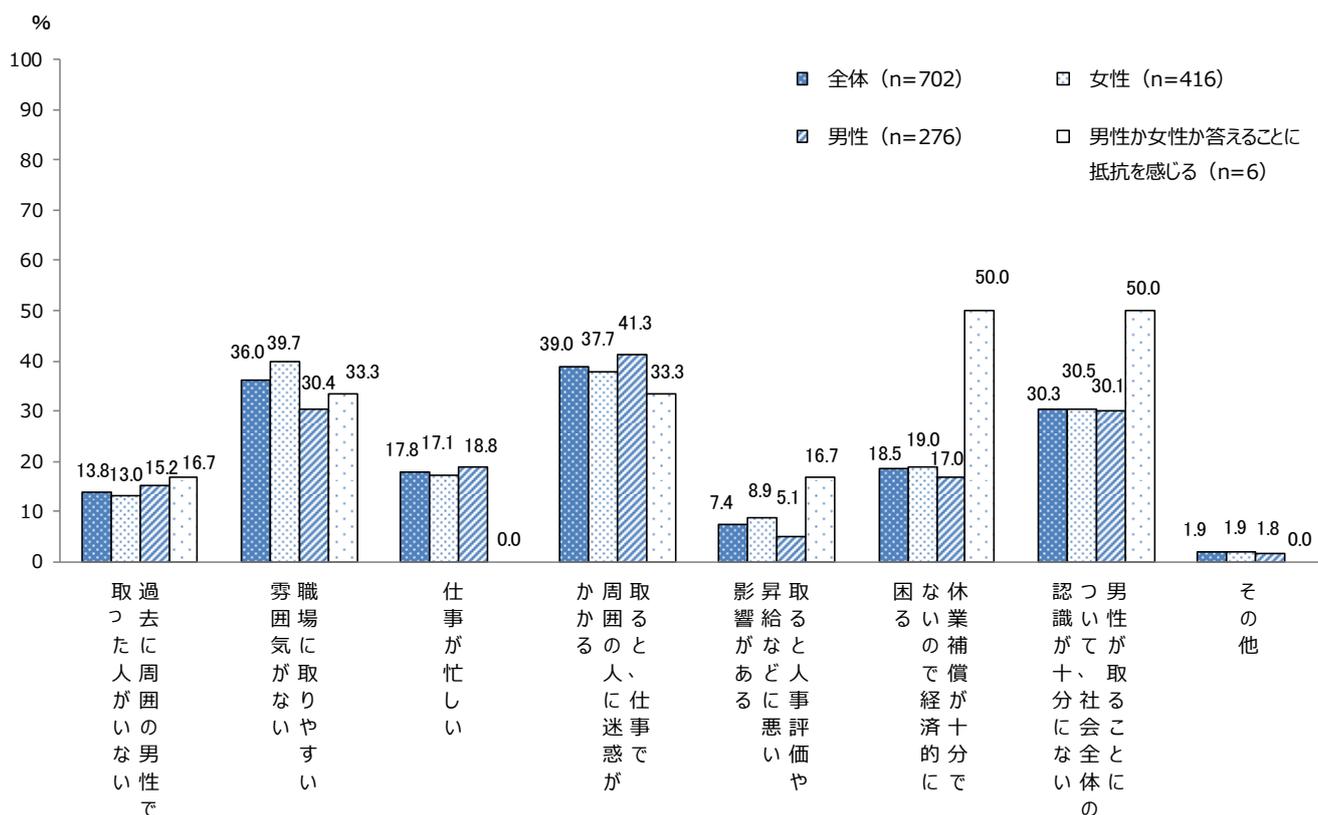
「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のことです。

（仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章より）

男性が育児・介護休業を取りづらいと思う理由

男性が育児・介護休業を取りづらい理由は「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」が4割弱で最も高い。

- 性別では、「職場に取りやすい雰囲気がない」が男性女性の差が最も大きく、9.3ポイントの開きとなっています。男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方は、「休業補償が十分でないので経済的に困る」「男性が取ることに、社会全体の認識が十分でない」がともに5割で最も高くなっています。



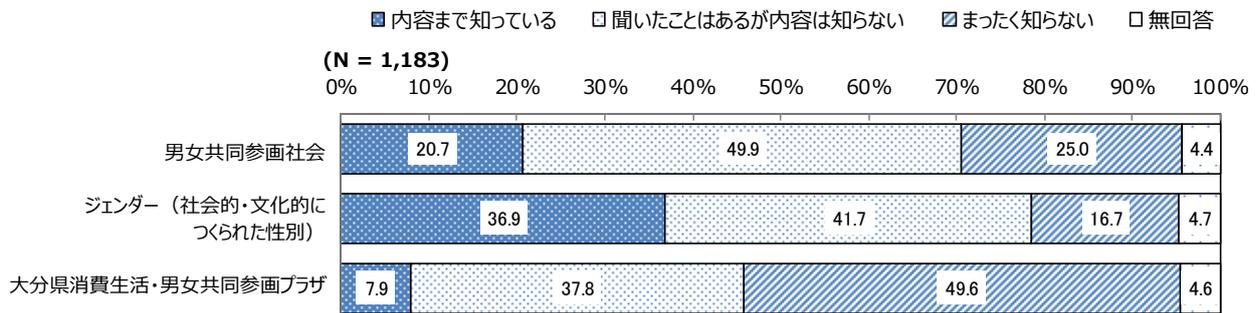
7. 男女共同参画施策への要望について

用語の周知度について

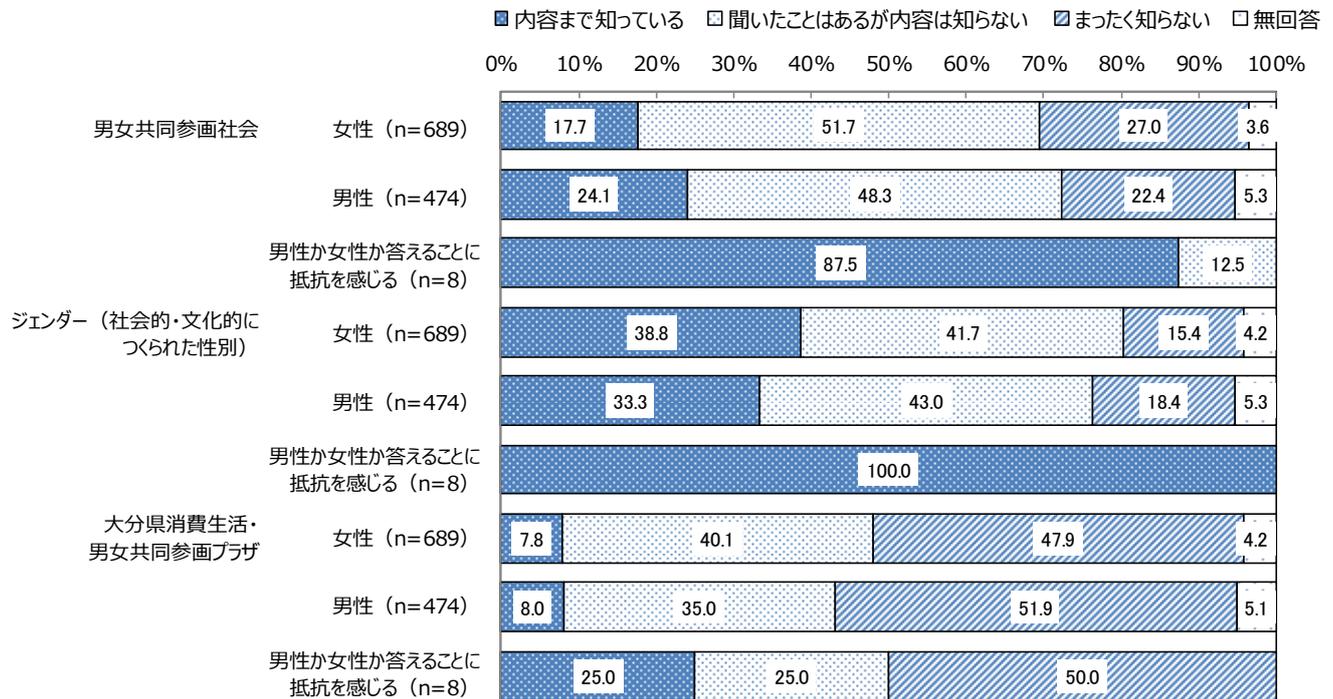
言葉の内容まで知っているのは、「男女共同参画社会」は約 2 割、「ジェンダー」は 3 割半ば。

- 男女共同参画に関する言葉について、「内容まで知っている」割合をみると、全体では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）が 36.9%で最も高く、次いで男女共同参画社会が 20.7%、「大分県消費生活・男女共同参画プラザ」が 7.9%と続いています。
- 性別では、「内容まで知っている」割合で最も男女差がみられたのは男女共同参画社会で 6.4 ポイントの差となった。男性か女性が答えることに抵抗を感じると回答した方では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）の「内容まで知っている」が 100%と関心の高さがみられました。

全体



性別



〔調査概要〕

- 調査対象：県内に居住する18歳以上の男女3,000人
- 調査期間：令和4年11月2日～11月25日
- 回収状況：有効回収数1,183人（有効回収率39.4%）
女性689人、男性474人、
男性か女性が答えることに抵抗を感じる8人、無回答12人
- 調査方法：郵送による配布・回収

令和4年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査 概要版

令和5年3月

発行	大分県 消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）
住所	〒870-0037 大分県大分市東春日町1番1号 N s 大分ビル1階
電話	097-534-2039
E-mail	oita-sankaku@pref.oita.lg.jp